

月	火	水	木	金
/				
	12:30 ↓ Audiology ↓ 15:20	12:30 ↓ Audiology ↓ 15:20	12:30 ↓ Audiology ↓ 15:20	12:30 ↓ Audiology ↓ 15:20
	16:00 ↓ tutor ↓ 17:00/18:00			

1. Audiology and Hearing Technology for Educators and Counseling Professionals (Unit 3)

ろう・難聴児者に関わる教育者や専門家向けの聴覚学である。本格的な聴覚学と比べ易しく、ろう・難聴児者と関わる上で必要な知識を幅広く学んだ。耳や音の構造やメカニズムなどの生理的・物理的な知識、オーディオグラムをはじめとする各聴覚検査結果のよみ方、補聴器や人工内・FM マイクなどの補助装置などである。

これらの知識はほとんど日本で学んでいたが、教授とチューターのとてもわかりやすい説明でより理解を深めることができた。一方で、オーディオグラムに付加される聴覚インピーダンス検査、鼓膜の反応を調べる検査、話し言葉の認知・理解度テストなどは新しい知識だった。しかし、子どものコミュニケーション手段や教育の場を決めるときに重要な情報であり、今回しっかり理解しながら学ぶことができてよかった。耳の疾患（病因学）もまた、将来役立つ知識だと思われる。

この授業では合計5つの小論文と、1つのプロジェクトが課された。小論文では授業で習ったことを反復したり、オーディオグラムの結果をまとめて一般人にわかりやすく説明したりした。プロジェクトでは、ろう、難聴、聴こえる人全員にとって快適な環境がテーマだった。ろう、難聴、聴こえる人全員が利用する部屋を2つ選んで、五感的に過ごしやすいかどうか評価を行ったあと、改善点を提供するものであった。私は心理カウンセリングを行う部屋をアメリカ、日本からそれぞれ選び、比較を行った。日本の心理カウンセリングでは、「クライアント＝聴こえる人」という前提がまだ根強く、ろう・難聴のあるクライアントにとって過ごしやすい環境整備が遅れている。だが、筆談を好むクライアントへの配慮が欠けている（机や筆談用具がない）など、アメリカの事例に偏った配慮が見られ、とてもよい勉強になった。

<次学期の目標>

- ASL と英語による自己表現力を上げる。
- 心理に関する知識・語彙力を増やす。
- アメリカの教育・司法制度を把握する。